

災害情報の入手方法や避難行動に関するアンケート調査 結果をお知らせします（概要版）

ご協力ありがとうございました。

調査の概要

- 【目的】 災害時における地域住民の避難行動等の課題などを明確にすることで、防災対策及び防災における新型コロナウイルス感染症対策の促進を図ることを目的とする。
- 【対象】 自治公民館加入世帯
- 【期間】 令和2年11月～12月
- 【回答率】 76.6%（8,003 枚配布中 6,132 枚回収）

【回答者】 6,132 世帯 13,999 人（※）

5歳以下	483人	3%
6～17歳	1,340人	10%
18～64歳	6,227人	44%
65歳以上	5,820人	42%
無回答	129人	1%



※ 人数は、世帯人員数無回答を除く6,120世帯の人員数。

アンケート結果

うち約半数が
単身世帯

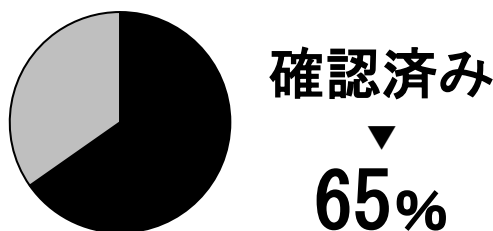
Q 高齢者世帯の割合



地域の支援が必要

65歳以上の高齢者のみの世帯が約4割、そのうち約半数が単身世帯、全体で「避難に支援が必要」と回答した世帯は「5世帯に1世帯」という結果になりました。災害に対して、高齢者や障がいのある方などは、危険を察知しにくい助けを求めることが難しいすぐ行動をとりにくい、といったことが考えられます。普段の交流や災害時の声かけなど、自主防災組織等の地域の温かい支援が必要です。

Q 自宅周辺の危険箇所を確認していますか。

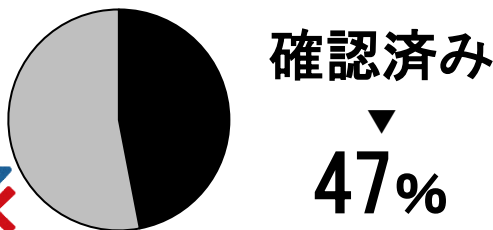


防災マップの活用を

「うちは安全だと思う」という感覚ではなく、防災マップや現場目視で災害想定を確認しましょう。自宅に加え、学校や職場など普段過ごすことが多い場所周辺の確認も。また、危険箇所はあるが、災害時の行動は決めていない世帯が約1割でした。危険のおそれがある場合にとる行動や避難場所、避難場所までの安全な経路を決めておきましょう。



Q 災害時の行動を家族と確認していますか。

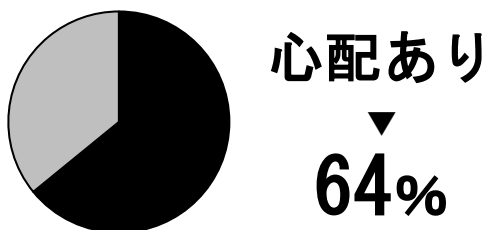


状況ごとに決めておく

災害発生時、家族が同じ場所にいるとは限らず、スマートフォン等の連絡手段も使えるかわかりません。通学中・仕事中等の状況ごとに、各自の避難先や集合場所、連絡方法などを事前に決めておきましょう。単身世帯の回答の中には、友人や親せきと避難先やとる行動などを決めて、という方もいらっしゃいました。



Q 大雨や台風時に地域で心配なことはありますか。

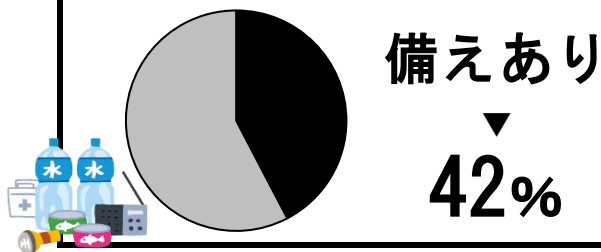


災害ごとの対策を

土砂災害や浸水、高潮などの災害が心配という回答は、山間部や沿岸部など地域の特性に応じた結果となりました。全体では、強風による飛散物や停電が心配という声もありました。災害の種類に応じて対策は様々です。災害ごとの防災・避難に役立つ情報を市総合防災マップに掲載していますので、確認しておきましょう。



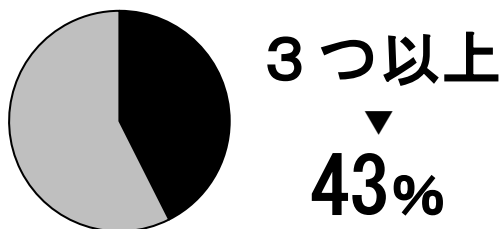
Q 防災グッズを準備していますか。



備蓄は最低3日分

懐中電灯、非常食、水、ラジオ、常備薬、貴重品などを備えておきましょう。**非常食**は、缶詰などの火を使わずに食べられるものを備えましょう。**水**は、1人1日3ℓが目安です。**感染対策用品**は、約8割の方が「備えあり」という結果でした。マスクや消毒液のほか、スリッパ、除菌シート等もあってよいでしょう。

Q 災害情報等をどのような方法で入手していますか。



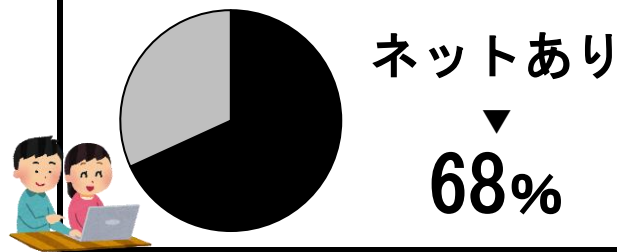
複数の方法を用意

【入手方法ランキング】 災害時には、機器の被害や停電、電波障害など、いつ何が使えなくなるかわかりません。そのため、情報の入手方法は**複数備えておく**ことが大切です。機器については、停電対策のため、バッテリーや乾電池などを備蓄しておきましょう。

1位 テレビやラジオ (67%)
2位 緊急速報メール (65%)
3位 防災行政無線 (45%)
4位 防災・一般情報提供メール (30%)

※複数回答

Q インターネットに接続できる環境がありますか。

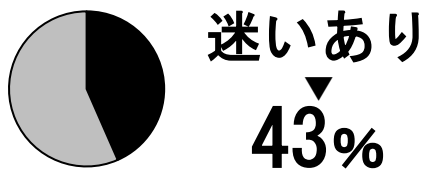


高齢者世帯も4割がネットあり

全世帯中約7割、高齢者世帯だけで見ても、約4割の世帯にネット環境がありました。また、総務省「令和2年情報通信白書」において60歳以上のネット利用率が大きく上昇していることがわかっています。しかしながら、ネットなし世帯も半数を占めていますので、双方の対策強化を推進してまいります。

コロナ禍での避難

Q 台風第10号(R2.9.6)が接近したとき、新型コロナウイルス感染拡大で避難行動をすることに迷いなどはありましたか。



昨年の台風は、**新型コロナウイルス感染拡大中**に接近しました。アンケート結果では、コロナがみなさんの避難行動に影響を与えたことがわかります。

コロナが収束しない中でも、災害時は**「危険な場所にいる人は避難する」**ことが原則です。

内閣府（防災担当）・消防庁は、災害時の避難について次のように示しています。

- 避難とは「難」を「避」けること。**安全な場所にいる人まで移動する必要はありません。**
- 避難先は、学校・地区センターだけでなく、**安全な場所の家族・親戚・知人宅も考えましょう。**

市の事業紹介

防災行政無線の放送は**73-3400** (専用ダイヤル) に電話して聞くこともできます。

枕崎市総合防災マップ



昨年4月に新しい防災マップを配布しています。危険箇所や防災に役立つ情報を掲載していますので、ご覧ください。



お持ちでない方は、市ホームページほか市役所で配布しています。

防災・一般情報提供メール



気象・災害情報をメールでお知らせします。メールの受信には、**事前の登録が必要です**。防災行政無線で放送される一般情報も受信選択できるので、市外にいるときなども放送内容を確認できて便利です。



戸別受信機等設置補助



防災行政無線の放送をご自宅に設置の戸別受信機で聞くことができます。台風時等は屋外放送が聞こえづらくなるため、設置を検討しましょう。市では、**戸別受信機等の設置に係る費用を補助**しています。



アンケート結果の詳細は市ホームページに掲載しています。